

第2章

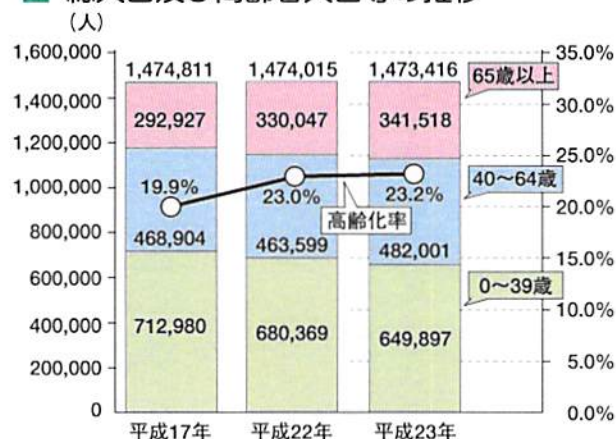
高齢者の現況及び 今後の高齢者の姿

1 京都市の高齢者の現況

【1】総人口と高齢者人口等の推移

本市の近年における総人口及び高齢者人口等の推移を見ると、総人口は横ばい傾向にあります。しかし、65歳以上の高齢者人口は増加し続けており、平成23年には341,518人と平成17年より約4万9千人増加し、高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）についても平成23年は23.2%と、平成17年より3.3ポイント増加しています。

■ 総人口及び高齢者人口等の推移



資料：国勢調査（平成17年、平成22年）

推計人口 京都市総合企画局情報化推進室情報統計担当
（平成23年10月）

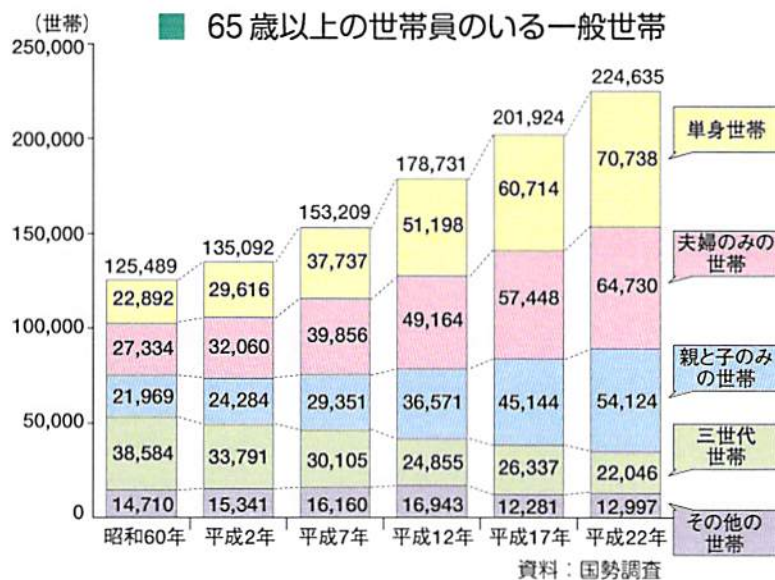
※ 平成22年の構成比は総人口から年齢不詳を除いて算出している。

【2】世帯の状況

本市の65歳以上の世帯員のいる一般世帯数は、平成22年には224,635世帯と前回調査より更に増加しています。

内訳を見ると、「単身世帯」「夫婦のみの世帯」「親と子のみの世帯」の世帯数の増加が見られる一方、「三世帯世帯」が減少しています。

■ 65歳以上の世帯員のいる一般世帯



資料：国勢調査

【3】介護予防の状況

介護予防の認知状況・実施状況を見ると、要介護状態になることを予防する取組を実践している割合は約2割となっています。また、自己の心身の変化への対応状況を見ると、「現状を維持できるよう取り組んでいる」割合が約5割となっている一方、「適切に対応できているかわからない」の回答が約3割見られます。（「高齢社会対策実態調査／高齢期の生活と健康に関する調査」）（平成23年1月）

【4】介護・生活について

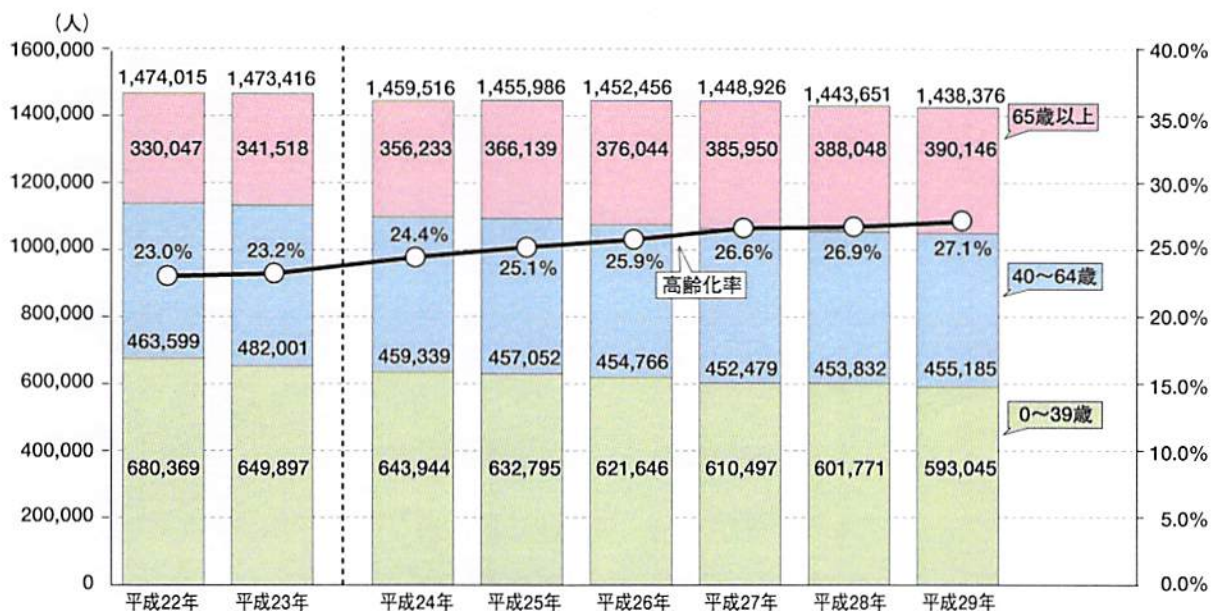
介護が必要となった場合にどのような介護を希望するかを見ると、自宅での生活を希望される傾向が見られます。（「高齢社会対策実態調査／高齢期の生活と健康に関する調査」）（平成23年1月）

② 京都市における今後の高齢者人口等の見通し

「団塊の世代」が高齢期を迎え、4人に1人が高齢者となる見込みです。

本市における高齢化率は、平成25年度に25%を超え、4人に1人が高齢者になると予測されます。

また、高齢者人口は、平成26年度には37万人を超えると推計されます。



資料：国勢調査（平成22年）

推計人口 京都市総合企画局情報化推進室情報統計担当（平成23年10月）

平成24年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の市町村別将来人口（平成20年12月推計）」

を参考に、京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課において推計

※ 平成22年の構成比は総人口から年齢不詳を除いて算出している。

要支援・要介護認定者数は約6千人増加する見込みです。

高齢者人口の増加に伴い、要支援・要介護認定者数も増加が見込まれます。平成26年度における要支援・要介護認定者数は、7万3千人を超え、平成23年度と比較し約6千人増加する見込みです。

ひとり暮らしの高齢者世帯や認知症高齢者の増加が見込まれます。

平成22年10月現在の本市におけるひとり暮らし高齢者世帯数は、70,738世帯となっています。

また、本市の要支援・要介護認定者における認知症高齢者数（「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者数）は、平成23年度において約3万6千人で、平成18年度と比較して約1.4倍になっており、今後、高齢者数の増加に伴い、更なる増加が見込まれます。

このような中、地域から孤立しがちなひとり暮らし高齢者や認知症高齢者に対する地域における見守りや支援がますます重要となっています。